

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

神明幼稚園では「令和6年度とうきょう すくわくプログラム」として、以下の2つのテーマを掲げて幼児の興味・関心に応じた探究活動を実践した。

テーマ1・・・色であそぼう～まざって、ぬって、かいて～

【テーマの設定理由】

本園ではかねてから造形講師の荒野真司氏を招き保育の中で造形活動を定期的に行ってきた。本年は特に「色であそぼう～まざって、ぬって、かいて～」をテーマとして、混色の楽しさや不思議さ、様々な道具の使い方に注目した造形活動を展開した。

【探究活動の実践】

年間計画に従って、合計23回の造形活動を造形講師・荒野真司氏と行った。1年間の集大成として2月の活動では、3月の劇遊びの発表会の壁面装飾（幼稚園ホールの部隊の壁面装飾）の制作を行った。1年間の活動の積み重ねを踏まえて、大きな紙に色を子どもたちが考えて配色し、場所により太い筆や細い筆を使い分けて色を塗った。ふだんの生活グループ（4～5人）を活用して、生活グループごとに画面を分担し、全体像をイメージしながら造形講師と配色や画面構成を決めて活動した。小グループに分けたことで子どもたちが主体性と責任を持って活動に取り組むことができた。最後に大きな作品が誕生したときには歓声が上がり、達成感を味わうことができた。また、過程を動画に撮り後日子どもたちとみることで、色の混ざりを可視化して子どもたちの理解を深めることができた。



【振り返り】

大きな紙に描く活動をする際に、造形講師から子どもたちに「一步引いて全体を見てごらん」という言葉かけがあり、子どもが自ら色の混ざりや配色の途中経過を確かめて行動する姿があった。全体をとらえることで、塗れていない部分だったり、色のバランスだったり、子どもたちが考えて行動することにつながった。また、小集団の作業場面を意図的に作ることで、子どもたち同士で意見の対立が生じてもめることも含めて、子どもたち同士のやり取りが活発になった。

パスしてシュート！繋げるホッケー

【テーマの設定理由】

本園ではかねてから、ホッケーコーチによるホッケー遊びを定期的に行ってきた。ホッケーを幼児のスポーツとして行うものではなく「棒（スティック）でボールを打つ」という幼児が興味を持ちやすいホッケーの特性に注目して、遊びの中で楽しみながら体を動かし協働活動のスキルを習得することを目標に活動を展開する

【探究活動の実践】

年間計画に従って、合計 26 回のホッケーあそびをホッケーコーチと行った。年長では 2 人組を作り、相手の名前を呼んでパスをした（写真①）。まず相手を意識し相手の立場に立って取りやすいパスを加減することなど、対人スキルの基礎を養うのによい活動となった。子どもたちからもどうすれば取りやすいパスを出せるか、いろいろな意見が主体的に出た。年中では普段の活動を逆にホッケーに採り入れ、運動会でやった玉入れをホッケーでやってみた（写真②）。理解が追い付かずにおいていかれる子がないように 3～4 人の小集団で行い、子どもたち同士で声を掛け合っていた。年少ではスポーツとしてのホッケーの上達が目標にならないように、スティックの上を両足ジャンプで飛び越える、頭にスティックを乗せてバランスを取る、などの運動遊びに時間をかけて行った。



【振り返り】

ホッケーはスポーツとしてだけではなく、人とのやり取りを学ぶ、順番を待つなどの集団でのルールを学ぶ、スティックやボールという道具を使って様々に身体を動かし使う、など幼児期の子どもたちの発達を促す様々な面があることを感じた。普段接している幼稚園の先生とは違う「ホッケーコーチ」の存在も子どもたちの社会性の育ちを促す面があった。それらのメリットを意識しながら、いろいろな場面で小集団に分けて活動を行い、子どもたちの中で工夫や発想が生まれる環境を意識して行った。